

一般社団法人
兵庫県病院協会
会報

● 発行 ●
一般社団法人兵庫県病院協会
〒651-0086
神戸市中央区磯上通
6丁目1番11号
兵庫県医師会館7F
TEL (078) 251-3030
FAX (078) 251-3011
会報編集委員会
印刷 株式会社 七旺社



目次

— 巻頭言 —

AIと医療

(一社) 兵庫県病院協会副会長
地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

院長 平田 健一 3

— 随筆 —

わたし自身の働き方再考と医師の働き方改革

(一社) 兵庫県病院協会理事
地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院

病院長 木原 康樹 4

お・も・て・な・し

(一社) 兵庫県病院協会理事
医療法人尚生会 湊川病院

理事長 細見 和代 5

＝ 事務局短信 ＝

兵庫県病院協会第10回定時総会

兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式・記念講演会 7

＝ 役員就任のご挨拶 ＝

(一社) 兵庫県病院協会理事
国立大学法人 神戸大学医学部附属病院

病院長 眞庭 謙昌 8

＝ 会員病院紹介 ＝

医療法人 川崎病院

病院長 西村 元延 9

＝ 編集後記 ＝

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員
公益社団法人日本海員掖済会 神戸掖済会病院

院長 藤 久和 12



〈表紙の写真〉

淡路島 大観覧車 (淡路市)

明石海峡大橋明を臨む絶好のビューポイントに位置する淡路サービスイリアの大観覧車。一周約十五分間で、最高高度は六五メートルに達します。海のすぐそばに立っているので、最高地点に達した際には海と空の景色を楽しめます。

ゴンドラは全部で四〇台あり、冷房が完備されています。車いすの方も乗車できる車いす対応ゴンドラや座席も床も透明なシースルーゴンドラもあるので空中を散歩するような気分が味わえるかもしれません。また、ペットと一緒に乗車できるゴンドラもあるので家族みんなの記念になります。夜にはライトアップもされるので、同じくライトアップされた明石海峡大橋との共演も見どころでしょう。

巻頭言

AI と医療



(一社)
兵庫県病院協会 副会長
地方独立行政法人加古川市民病院機構
加古川中央市民病院
院長 平田 健一

最近、様々な場所でAIが話題になっている。「AI」とは「Artificial Intelligence：人工知能」の略で、特に生成系AIの利用は急速に進んでいる。以前、コンピューターがプロの将棋の棋士に勝ったと話題になっていたが、最近ではプロがAIを使って研究し、将棋の解説で1手ごとにどちらが有利かを瞬時に判断するなどその進化は驚異的である。また、ChatGPTが出現し大きな話題となったように、AIが文書や画像を作成することが可能となり、AIが大学入試や医師国家試験に合格するなど生成系AIの可能性は急速に進んでいる。学校教育でもレポートや作文などをChatGPTで作成することが可能で大きな問題となっている。ChatGPTを使用した文章や画像を見破る対策ソフトの開発などイタチごっこになっており、論文投稿においてもChatGPTの使用を禁止したり、投稿時にどの部分で使用したかを記載するなどの規定が行われている。AIの利用に関しては注意が必要であるが、時代の中で避けては通れない状況で、その役割はますます重要になっており、どのようにルールの中で使用していくかを整理し、上手に利用していく必要がある。

「医療AI」とは、AI（人工知能）によって医療の質の向上を目指した取り組みのことで、ゲノム医療、問診や画像診断、治療計画や手術支援などの治療関連、医薬品開発など利用できる可能性は広範囲である。厚生労働省の「保健医療分野におけるAI活用推進懇談会」が挙げている6つの重

点領域は、①ゲノム医療、②画像診断支援、③診断・治療支援、④医薬品開発、⑤介護・認知症、⑥手術支援です。その中でも画像診断は、医療分野でのAI活用が最も早かった領域であり、現在でも多くの現場で使われている。特に、胸部X線写真や、CT、MRI画像の診断は、AIを導入することで、微細な異常などの見逃し防止と早期発見、短時間で膨大なデータの処理ができ、医者の作業削減などのメリットがある。大腸内視鏡や胃カメラといった消化器内視鏡分野ではすでに製品化され、多くの病院で活用されている。画像診断など多くのデータを集めることが可能な分野のAIは深層学習（ディープラーニング）をベースにしているので精度の高い診断が可能となる。医学分野の学術集会でもAIに関するセッションは賑わっており、特に若い世代の関心は高い。画像診断でAIが威力を発揮することはある程度想像できるが、循環器領域でも興味深い多くの発表がある。ディープラーニングは多くのデータを解析し、答えを出すプロセスはブラックボックスである。昔は心電図を心電計が診断しても全く信頼できないものであったが、現在はかなり高い診断精度になっている。AIを用いると心室性不整脈のフォーカスや副伝導路の位置を12誘導心電図から推測できる。また、驚くことに心電図のI誘導を解析するだけで心不全の増悪を極めて高い精度で予測できる。心電図のどこを判断して答えを出すのか理論的に説明は難しいが、臨床の場では利用価値は高いと思われる。今後、いくらAIの診断が向上しても、責任を負う観点から医師の判断とAIと適切に連携させることが重要である。また、ディープラーニングに必要な医療データは常に個人情報保護観点が必要であり、セキュリティ対策が求められる。

将来的には診断学に携わる医師の方向性は変化していくと思われる。AIが膨大な論文やガイドラインを分析し、診断や治療法の選択もAIが示してくれるが、データの蓄積が難しい社会背景や環境要因を考慮し、柔軟に判断することは医師が担うことになるとと思われる。少なくとも今大きな課題となっている「医師の働き方改革」の対応に

AIを利用することでその一部が解消することが期待できる。それだけでなく、多忙な医師や看護師が電子カルテや書類に忙殺され、患者とのコミュニケーションを取る時間が不足している現在、医療AIが心の通った医療を取り戻す推進力になることを期待したい。

随筆

わたし自身の働き方再考 と医師の働き方改革



(一社) 兵庫県病院協会 理事
地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
病院長 木原 康樹

病院長とはそもそも管理職にあって職務契約や労使協定には制約を受けないのであるから、正直何時に出務して何時に退勤しようともとやかく言われる立場ではないらしい。とは云うものの、長年身体に染みついてしまった習慣とか習性とかによって、朝8時半には白衣に袖を通し、夕5時を回るまでは机の周りで仕事を漁っている。Your CHAIR is KILLING YOU! の例に漏れず、過剰なデスクワークの結果として、だんだんと足腰が言うことをきかなくなってきた。それを何とかしようと、新型コロナウイルス感染症の5類移行を免罪符として昼休みには院外の散策に出かけたり、公休を宣言しては六甲の裾野をひたすら歩いたりすることが加わった。

日中に街路を彷徨うと、何とも日が明るく、緑が眩しく、風が強い。人々が行き交い、会話が聞こえ、生活がある。学校から子供たちの合唱が聴こえてきたり、生臭いラーメンの匂いに出くわしたり、樹々の葉が裏返るたびにきらきら輝いたりする。普段の人々にはきっと当たり前の風景が、

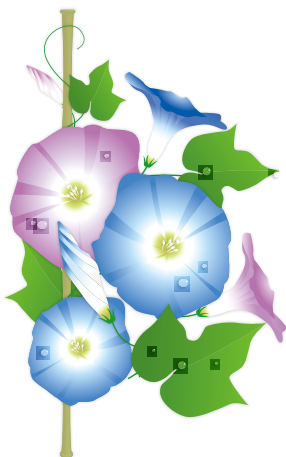
限りなく新鮮に思われる。ちょうど長年世話になった塀の内から昨日娑婆に出てきたプー太郎や、遠い宇宙から地球にやってきたトミー・リー・ジョーンズのような感想を洩らす。どうしてそうなったのかについての答えは明白である。日が昇る前には病院に入り、どっぴりと日が暮れて、時には人々が寝静まってから、病院を後にする毎日をかれこれ45年も続けてきたからである。いつの間にか自分は世間でのフツのひとではなくなってしまったことに気付かされる。家庭においてはきっとよい父親ではなかったことにも。

我々の眼が黒いうちは労基署が病院に踏み込むことなどありえないというのが、先輩から私たちが聞かされ、自分たちも同様に反芻してきたばかりの壁であった。翻ってみれば、私たちは医師としての正義と責任を振りかざす余り、体制のヒエラルキーに追従し、非効率性を棚に上げ、自分たち自身やその家族をも台無しにしてきたのではないか。医師法は昭和23年に制定された法律である。医師の国家資格、医療行為の専権、病者への応召義務は、現在よりも医師の絶対数が十分の一に満たない終戦直後の時代においては社会の要請を体现したものであったであろう。しかしその制度を鋳型として我が国の医療体制はその歪みも併せて構築され、強固に発達し、既得権を生み、70年近くも修正が加えられることはなかったわけである。

医師法の壁はあっけなく崩壊し、労基署は一度ならず病院に出入りする時代となった。労基署がけしからないのでなく、私たちが若いころに叩き込まれた世界そのものが今となっては存在しなくなったのである。病院は聖域ではなく、多数のかつ様々な職業人がそこで働き、力を合わせて患者を回復させるという目標に挑み、その成果を地域で共有する職場に外ならない。多くの職業の中から医師になることを選んだ優れた人たち、とりわけ医療機関に勤務し労務協定に基づいて医療を実践する道を選択した将来を担う若者たちを安心させ、プライドを想起させ、医療行為とその修練に集中できる環境を整えてやらなければならない。医師の働き方改革とは我が国の医療が抱える深刻な歴史的ひずみを修正する一大事業であっ

て、80時間とか100時間とかの超勤合わせをして済むような軽々しいことではない。

そのような問題意識を職員の間で共有した神戸市立医療センター中央市民病院は4年前に医師の働き方改革委員会を立ち上げ、病院全体で試行錯誤を行ってきた。救急診療やホットラインの運用に携わる部局だけではなく、全ての診療科を対象として、勤務時間の見える化、フレックス勤務の導入、シフト制への移行、代行制度の整備、自己研鑽についてのコンセンサス形成等に互る多角的な改革を進め、長時間勤務を是とする雰囲気の一掃に努めてきた。それら改革を支援するものとして、部局定員の見直しや給与体系の是正、兼業規定の緩和など、岩盤部分への切り込みも徐々にではあるが進めている。結局のところ、ここで働くことに満足や愛着や誇りを感じられるかどうかは、10年後に当院が生き残っているかどうかのアウトカムに直結している。それは、諸君のためだけでなく、この病院を訪れる患者たちが体験する闘病という非日常の意味付けにも繋がっているよね、と病院長は若者に発破をかけている。



お・も・て・な・し



(一社) 兵庫県病院協会 理事
医療法人尚生会
湊川病院
理事長 細見 和代

サービス業界だけでなく、医療の現場においても「接遇」や「ホスピタリティ」の重要性が言われるようになった。私が勤務する病院でも接遇に関する研修を繰り返し行ってはいるが、組織全体に浸透するにはまだ遠いのが現状である。

2013年9月7日に、国際オリンピック委員会の総会で、滝川クリステルさんによるプレゼンテーションが話題になった。全世界に「日本のおもてなし」というものを紹介し、見事2020年夏季東京五輪招致に成功、「お・も・て・な・し」は2013年の流行語大賞にも選ばれた。

ネットで「おもてなし」を検索すると、「おもてなし」とは、「もてなし」に丁寧語「お」をつけた言葉で、心のこもった待遇のこと。顧客に対して心をこめて歓待や接待やサービスをすることとある (Wikipedia)。

「おもてなし」と「サービス」の違いであるが、「サービス」の語源はラテン語で奴隷を意味する servus であり、提供する側とされる側に主従関係が発生する。つまり、お金によって、金額の範囲で一種の奴隷になるという意味合いをもつ。これに対して、「おもてなし (ホスピタリティ)」の語源はラテン語の hospes (客人の保護者) であり、かつて交通機関や宿が整備されていない時代、巡礼の旅の途中、疲れた旅人に無償で飲食をふるまったり、看護を施したり、宿泊施設を提供したりしたことにはじまる。表裏のない心での見返りを求めない対応と言われ、「hospital (病院)」もこの「hospes」から派生した言葉である。

さて、随分昔のことになるが、私は学生時代、阪急電車を利用して通学していた。当時、阪急電鉄神戸線から西宮北口で今津線に乗り換えると、グレーの制服姿で容姿端麗な学生を見かけた。背筋をピンと伸ばし、車内が空いていても決して着席することはなく、下車した後には振り返り、走り去る電車に向かってお辞儀するのには驚いた。後にその学生が宝塚音楽学校の生徒だということを知った。宝塚音楽学校は宝塚歌劇団団員の養成所だが、宝塚歌劇団といえば「清く、正しく、美しく」をモットーに礼儀作法やマナーが厳しいことは有名である。

あるとき、元宝塚歌劇団トップスターの女優がテレビで話されているのを見て、電車へのお辞儀の謎が解けた。宝塚音楽学校の生徒は阪急電鉄の正社員でもあるので、乗客への礼儀と、電車に上級生が乗っている“かもしれない”ために、そのような行動をとるのだということだった。

そんな宝塚歌劇団の舞台裏には、こんな貼り紙が貼られていたようだ。

「宝塚ブスの25箇条」!!

1 笑顔がない / 2 お礼を言わない / 3 おいしいと言わない / 4 目が輝いていない / 5 精気がない / 6 いつも口がへの字の形をしている / 7 自信がない / 8 希望や信念がない / 9 自分がブスであることを知らない / 10 声が小さくいじけている / 11 自分が正しいと信じ込んでいる / 12 愚痴をこぼす / 13 他人をうらむ / 14 責任転嫁がうまい / 15 いつも周囲が悪いと思っている / 16 他人に嫉妬する / 17 他人に尽くさない / 18 他人を信じない / 19 謙虚さがなく傲慢である / 20 人のアドバイスや忠告を受け入れない / 21 何でもないことに傷つく / 22 悲観的に物事を考える / 23 問題意識をもてない / 24 存在自体が周囲を暗くする / 25 人生においても仕事においても意欲がない

これは顔カタチの問題ではなく、「心がけ」を問うているのであって、人間としてのあるべき姿を逆説的に示したものではないかと思う。わが身を振り返れば、気をつけなくては！と気づかされることばかりでお恥ずかしい限りである。組織のおもてなし度をあげるためには「心がけ美人」を

ひとりでも増やさないといけない。

病院の片隅に「〇〇病院（当院）ブス25箇条」を貼ってみてはどうだろう。



＝事務局短信＝

兵庫県病院協会第10回定時総会 兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式・ 記念講演会



1 第10回定時総会

6月8日（土）午後1時30分から、兵庫県医師会館において、第10回定時総会が開催されました（出席者は、委任状提出、議決権行使を含め155名）。

大西祥男副会長が開会宣言を行い、大村武久会長の開会挨拶に続き、兵庫県山下輝夫保健医療部長と兵庫県医師会八田昌樹会長からの祝辞をいただいた後、大村会長が議長となり議事に入りました。

(1) 報告事項

高橋玲比古副会長から「令和5年度事業報告」、「令和6年度事業計画」及び「令和6年度収支予算」について報告があり、異議なく了承されました。



報告事項及び議案の説明

(2) 議案審査

第1号議案：令和5年度収支決算について承認を 求める件

大西副会長から、貸借対照表、正味財産増減計算書等による説明に続いて栗原監事から決算審査報告があり、全会一致で異議なく承認されました。

第2号議案：理事の選任（補充）の件

議長から、本総会をもって退任する大西理事（副会長）の後任に眞庭謙昌神戸大学医学部附属病院院長を理事に選任したいとの提案説明があり、全会一致で異議なく承認されました。

以上で予定の審議は終了し、太城力良副会長の閉会宣言で総会は終了しました。

なお、総会後の臨時理事会において、大西副会長の後任副会長に眞庭理事が選定されました（8ページに新理事の就任挨拶を掲載）。

2 兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式

総会に続き、長年にわたり病院職員として勤務し、地域医療に貢献された方々に対し、兵庫県知事感謝状の贈呈、及び永年勤続病院職員表彰が行われました。

兵庫県知事感謝状は兵庫県山下保健医療部長から、永年勤続病院職員表彰状は大村会長から、それぞれ代表者に賞状と記念品が手渡されました。



◆兵庫県知事感謝状

- ・45病院 147名
代表：神戸大学医学部附属病院
新田 浩幸様

◆永年勤続病院職員表彰

- ・30年勤続 84病院370名
代表：兵庫県がんセンター
有近 優子様
- ・20年勤続 103病院537名
代表：新生病院
岡田 幸子様

3 記念講演会

表彰式終了後、記念講演会が開催されました。

太城力良副会長が座長を務め、講師の三輪洋人川西市立総合医療センター総長に「新国民病『胃の不調』の原因と対策」と題してご講演いただき、会場との意見交換も活発に行われました。

最後に、太城副会長からお礼のことばと閉会の挨拶があり、総会と関係行事は、すべて終了しました。



役員就任のご挨拶



理事

国立大学法人
神戸大学医学部附属病院
病院長 眞庭 謙昌

この度、兵庫県病院協会の理事に就任させていただきました神戸大学医学部附属病院の眞庭謙昌です。私は1990年に神戸大学を卒業し、当時の第2外科に入局、呼吸器外科を専門として肺癌診療を中心に取り組んでまいりました。2021年2月より病院長に就き、現在に至ります。これまで、コロナ対応、そして最近の物価高騰や人件費上昇による病院経営の圧迫など、課題が山積する中で、近隣の病院様と情報共有、連携させていただくことで、何とか乗り越えてきたことを深く感謝しています。

今年4月にスタートした医師の働き方改革についても、大学病院自体の運営にとっても、また地域の医療機関との連携においても大きな課題となっています。医師の時間外・休日労働が規制されることを受け、本年2月に文部科学省から「大

学病院改革ガイドライン」が示されました。このガイドラインによりますと、大学病院においては、医師の働き方改革の推進と教育・研究・診療機能の維持の両立を図るため、必要な運営体制を整備し、将来にわたって持続可能な経営基盤の確立に向けて取り組むことが求められています。そして、地域医療確保暫定特例水準（B水準、連携B水準）の解消が見込まれる2035年度末に向けて、全ての国公立大学病院に対して、まずは2029年度までの期間（6年間）に取り組む内容を、「大学病院改革プラン」として策定することが要請されました。

本院が策定した大学病院改革プランは、「医師の働き方改革、最先端医療の推進、高度医療人材の養成、地域医療機関等との連携強化、医療DXを活用した業務の効率化、持続可能な病院経営、施設・設備の戦略的整備等を強力に推進」を掲げ、そのうえで、「運営改革」、「教育・研究改革」、「診療改革」、「経営改革」の4つの改革の柱で構成されています。大学病院としての最先端医療および医療人材の提供機能を維持し、兵庫県内の医療の要としての役割を果たしていくため、皆様方としっかりと連携してまいりたいと考えますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

会員病院紹介

川崎病院



医療法人川崎病院
病院長 西村 元延



はじめに

当院は、1936年（昭和11年）、株式会社川崎造船所（現在の川崎重工業株式会社）の社長であった平生鈺三郎（ひらお はちぎぶろう）氏によって、家族も含めた全従業員対象の企業病院として開設されました。その後、1950年（昭和25年）に医療法人として独立、民間病院としてすべての方の診療を行うようになりました。当時より地域に根ざした拠点病院として先進的な医療に取り組み、1973年には、そのころ全国的にも少なかった人工透析室を開設しました。1975年、神戸市内では神戸中央市民病院に次ぐ2番目の早さでCCUを設置し、循環器系重症疾患患者を24時間体制で治療する体制を整え、翌年には「心臓血管病センター」を開設し、神戸市内の循環器救急医療を担う民間病院の草分け的存在となりました。その後も地域住民のニーズに応え、高度で質の高い医療を提供すべく、1998年には東館を新設。24時間いつでも緊急カテーテル心臓手術ができる体制を構築するなど「急性期医療」体制を充実させるとともに、人間ドックをはじめとする「予防医学」の充実にも力を注ぎました。

2013年には西館を新設。救急外来・心臓カテーテル室・HCU・心臓血管病センターを同フロアに集約し、動線を一本化することで、循環器疾患を中心に救急・急性期治療に対する診療体制をより強固なものにしました。現在、『良質な医療を提供し、信頼される病院に』を基本理念に地域の中核病院として、許可病床数278床（HCU 4床、地域包括ケア病床48床、人間ドック5床含む）で運営しています。場所は異人館やハーバーランドにほど近く、美しい神戸の街と海を望む高台にあり、神戸市の中心地・三ノ宮まで電車で5分という交通至便の地。静かな環境と便利さを兼ね備えたところに立地しています。

1. 救急医療

神戸市2次救急病院として、内科、循環器科、外科、整形外科の輪番に参加しています。平日日勤帯は、内科または総合診療科の若手医師が交代でファーストタッチを行い、必要に応じて専門診療科に紹介するようになっていきます。循環器疾患に関してはホットラインを開設し、専門医が直接かつ迅速に診断・治療できる体制をとっています。

夜間・休日に関しては、主に内科系と循環器科の当直医が初期対応をおこない、外科、整形外科の2次救急輪番日は外科、整形外科の医師が初期対応するようにしています。循環器科に関しては、平日、夜間・休日問わず、専門医が交代で常駐するようにしており、24時間、緊急カテーテル検査、治療ができる体制を整えています。

昨年からの救急の応需率向上を目指してさまざまな対策を講じており、昨年度の救急患者延べ人数は4,587人、救急車の受け入れ件数は3,140台でした。いずれも前年度に比較して、救急患者延べ人数は1,432人、救急車受け入れ台数は1,076台増加いたしました。

2. 救急総合ケアシステム

当院は地域医療支援病院であり、地域包括ケア病棟48床も有しております。また200床以上の病床数を有する病院としては珍しいと思われませんが、在宅診療もおこなっております。高齢者が多いという当院の立地にも鑑み、救急診療から急性期医療、さらに在宅診療で自宅への復帰も支援するという流れをシステムとして構築したいと考えております。

これにより在宅で病状悪化した場合は速やかに再入院していただくことも可能となります。特に在宅でも手がかかるような患者さまを中心に診療することで開業しておられる地域の先生方の在宅診療との差別化を図ろうとしています。これを救急総合ケアシステムと名づけて、少しでも地域医療に貢献できるようにシステム構築を目指しております。

まだまだ在宅診療の数が限られているため、これからというところですが、今後、求められていく医療の一つの形であろうと考えております。

3. 循環器診療

先にも触れましたように循環器疾患に関しては、1975年にCCU（現在のHCU）を設置、1976年に心臓血管病センターを設立し、その診療に力をいれてまいりました。1998年よりは24時間緊急カテーテル検査・治療が可能な体制を整え、現在まで維持しております。2017年には心臓カテーテル治療が過去最高の523件となりましたが、コロナ禍を経て現在は年間約200件程度で推移いたしております。冠動脈疾患だけでなく、不整脈に対するアブレーション治療、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療なども積極的に行なっています。特に閉塞性動脈硬化症は、足趾潰瘍を伴うような重症下肢虚血の症例でも、循環器内科、形成外科、血管外科でチームを組み、合同カンファレンスで検討しながら、救肢を目指して最適な治療を行うようにしています。必要な症例には足関節の動脈に吻合するいわゆるdistal bypassも行なっています。また、最近爆発的に増加している

高齢者の心不全に対しても、薬物治療を最適化し、心臓リハビリテーションで家庭での運動の最適レベルを指導したのち、かかりつけ医へお戻しするというような病診連携に努めております。

4. がん診療

救急医療、循環器診療とともに、当院のもう一つの柱ががん診療です。2012年に兵庫県指定のがん診療連携準拠点病院に指定され、がんの病態に応じて、手術、化学療法、他施設との連携による放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供しています。これにより当院は地域のがん診療の中核的役割を担っており、特に胃がん、大腸がんなどの消化器がんを中心に治療を提供しております。手術の場合は、ほぼすべて内視鏡を用いた鏡視下手術を行なっており、できる限り低侵襲な手術を行なっています。またさまざまな職種からなる「がんセンター」を設置しており、化学療法、緩和ケアなど、多職種のスタッフの力を結集してがん診療にあたっています。

おわりに

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、2024年4月からは国の支援体制も完全なくなりました。いよいよポストコロナの時代となり、また令和6年は診療報酬改定もあり、当院のような中小民間病院にとってはますます厳しい環境になっています。しかし、古くから地域のみなさまに親しまれてきた当院としては、救急医療、循環器診療、がん診療をはじめ専門医療を幅広く、引き続き提供し続けられるよう努めてまいりたいと考えています。

病院概要

名称：医療法人川崎病院
 所在地：兵庫県神戸市兵庫区東山町3-3-1
 管理者：病院長 西村元延
 病床数：278床（HCU4床、地域包括ケア病床48床、人間ドック5床を含む）
 診療科目：内科、糖尿病内分泌内科、血液腫瘍内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、外科、消化器外科、血管外科、心臓血管外科、肛門外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、人工透析内科、臨床検査科（計25診療科）
 職員数：医師・歯科医師 68人
 看護師 292人
 薬剤師・医療技術職 110人
 事務職 73人
 計 543人
 （2024年4月1日現在）

主な指定：
 兵庫県救急告示医療機関、神戸市二次救急輪番制当番病院、兵庫県地域医療支援病院、兵庫県在宅療養後方支援病院、兵庫県がん診療連携拠点病院、兵庫県紹介受診重点医療機関、神戸市災害対応病院、臨床研修指定病院、日本医療機能評価機構 病院機能評価認定施設

病院沿革

1936年1月 川崎病院開設（196床）
 1950年9月 川崎造船所附属病院から「医療法人川崎病院」となる（222床）。
 1953年11月 神経科病棟建築（42床）
 総病床数367床となる。
 1961年12月 許可病床数433床、最大となる（一般236床、結核155床、精神42床）。他に林田分院110床
 1971年11月 林田分院閉鎖
 1973年5月 人工透析室開設（6床）
 1975年11月 CCU開設・人工透析室11床に増設

1976年11月 心臓血管病センター開設
 2002年 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定（一般病院B）
 2006年5月 地域医療連携室開設
 2008年 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定更新（一般病院）
 2012年4月 （兵庫県）がん診療連携拠点病院に認定
 2014年2月 川崎病院西館改築、この際、病床削減し、278床となる。
 2014年 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定更新（一般病院2）
 2015年4月 神戸市より災害対応病院に指定
 2018年4月 （兵庫県）地域医療支援病院に認定
 2018年 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定更新（一般病院2）



総合受付



時間外受付・救急入口

編集後記

兵医療の現場は、日々進化し続けています。医療機関の経営陣や医療従事者は、患者のために最高のケアを提供することを目標に、絶えず努力を重ねています。

本紙でも各病院が持つ経営の複雑さと、その中での創意工夫が書かれています。大規模な医療施設では、効率的な運営が不可欠です。多くの病院が最新の医療技術を導入し、電子カルテやAIを活用することでハード面より診療効率を向上させることに注力しています。これらの取り組みにより、患者にとって快適で迅速な医療サービスが提供されています。

また、各病院ではソフト面でも地域医療の中心として、住民の健康を守るために日夜奮闘しています。地域との密接な関係を築きながら、患者のニーズに応じたきめ細やかなサービスを提供すべく柔軟に対応し、持続可能な医療体制を確立するために取り組んでいます。患者の精神的なサポートに重点を置き、

ホスピタリティを重視した多様なアプローチが、医療の質の向上に寄与しています。

医療現場で働くすべての方々の努力と情熱には、心から敬意を表したいと思います。このような献身的な姿勢が、地域住民の健康と安全を支えているのです。これからも、医療機関が新たな挑戦に果敢に立ち向かい、患者のために尽力し続けることを期待しています。

最後に医療現場のリアルな声をお届けするために、多くの方々が貴重な時間を割いてくださいました。本誌の編集にご協力いただいた皆様に感謝の意を表します。ありがとうございました。

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員

藤 久和

公益社団法人日本海員掖済会

神戸掖済会病院・院長 記

